

# 7月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和6年7月末現在〕

令和6年8月13日  
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、「景況」、「売上高」、「収益状況」のいずれも前年同月比では悪化しているが、前月比では改善した。

業種別でみると、「景況」「収益状況」は製造業、非製造業ともに前年同月比では悪化した  
が、前月比では改善した。「売上高」は、製造業では前年同月比では悪化し、前月比では改善  
した。非製造業では、前年同月比、前月比ともに改善した。

しかしながら原材料等の価格の値上げが続いている一方で、十分な価格転嫁を行えていな  
いという報告や最低賃金の上昇に懸念を抱く報告があった。

## 景況DI

製造業は、前月比9.8ポイント改善の▲36.0ポイント、非製造業は、前月比2.4ポイント改  
善の▲28.0ポイント、全体では、前月比6.3ポイント改善の▲32.0ポイントとなった。

## 売上高DI

製造業は、前月比9.3ポイント改善の▲24.0ポイント、非製造業は、前月比28.7ポイント  
改善の20.0ポイント、全体では、前月比19.3ポイント改善の▲2.0ポイントとなった。

## 収益状況DI

製造業は、前月比1.5ポイント改善の▲36.0ポイント、非製造業は、前月比6.1ポイント改  
善の▲20.0ポイント、全体では、前月比3.9ポイント改善の▲28.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発  
展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握す  
るために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員  
を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動  
向調査を実施しております。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製 造 業	学校給食パン	今年の最低賃金の目安額が過去最大の50円の上昇となる見込みであり、茨城県も大台の1,000円を超える見込みであるが、物価上昇に応じた措置だと理解はしているものの、中小企業の価格転嫁が進まない中で最低賃金の上昇により、ますます経営が苦しくなってくる。	
	清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県6月の清酒課税移出数量は、対前年同月比98.5%であった。本格焼酎についても、対前年同月比85.2%であった。 吟醸酒等の高級酒の対前年同月比114.9%に対して普通酒の対前年同月比は78.7%であった。 外飲み含めて日本酒ファンの高級品嗜好が顕著に表れている。 コロナ前の全体に占める普通酒の比率は54%であったが、今年6月単月の比率でみると36%まで下がっている。蔵元にとっては値段の高い高級酒が伸びることは好材料であるが、数量的にももう少し上げたいところである。 ○県内当業界について 6月1日つくばセンター広場にて「大吟醸を楽しむ会」の有料試飲会を行った。最高級酒の大吟醸に特化したイベントで全国的にも珍しい企画であった。値段も高く設定したことから客の入り心配されたが、つくばの土地柄もあり3時間で600名以上の来場者があり、茨城の高級酒を評価してもらった。首都圏（茨城では県南）では美味しければ高額でも売れると改めて認識できた。	
	納豆	10月の最低賃金の値上げ幅について懸念している会社が多い。価格転嫁が十分に進んでいない中で大幅な賃金上昇は、中小零細企業にとって利益圧迫となり、経営状態の悪化が予想される。人手不足の状況が続いている。	
	菓子	原材料の値上がりが続いている。価格転嫁は行っているものの、原材料の値上がりに併せて何度も価格転嫁を行うことは難しい。	
	漬物	7月は、猛暑の影響で梅干しや浅漬の消費が上昇した。一方で消費が減少した商品もある。日持ちする漬物を購入する消費者が増加している。	
	繊維工業	県北地区外衣シャツ	従業員の確保に苦慮している。
	木材・木材製品	製材	国産材製品は荷動きが悪く、製品価格も保合で推移した。 外材も荷動きが悪く、価格は保合で推移した。 原木は荷動きも良く、価格は杉は保合、桧は強含みで推移した。
		県北地区プレカット	組合の雇用人員は2名減少し総人数は10名。 月間加工坪数は目標の90%。 8月の加工予定は、夏季休暇の関係で初旬と下旬に集中している。 木材価格は、先月に引き続き横這いで推移している。
		県央地区プレカット	7月は手加工を伴う大型物件の受注があり、納期も短く慌ただしい状況であった。 大型物件の話は出てきているが、戸建て住宅の需要が増加しない状況である。
	紙・紙加工品	段ボール	大手企業は回復傾向にある中、中小企業も少しずつ生産量は戻りつつあるように感じられる。しかし、資材の高騰が影響して収益改善に至っていない。 このまま景気が良くなり生産量が増えることを期待するとともに、収益の改善に向けて価格転嫁に取り組む。
印刷	総合印刷	前年同月と比べて業況に変化はなく、固定客からの定例的な受注で作業現場を稼働させているのが現状である。例年6～8月は印刷物の需要が少ない時期のため、資金繰り等が苦しい状況にある。また、会社によってばらつきはあるものの、従業員の確保に苦慮しているところも見受けられる。	
窯業・土石製品	陶磁器	9月には秋のイベント開催に向けて生産量の増加等の準備に入る。	

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	鉄鋼・金属	鉄鋼 機械部品、建築金物製造業などの取引先が低調であるため、売上高は前年同月より1割程度減少した。 全ての金属材料が高値の状況である。 薬品・石油製品等についても高値の状況である。
	一般機器	生産用機械 7組合員の売上高の状況は、前年同月比で1社増加、6社減少の全体増減率60%であった。 団地全体の売上高は、主要取引先からの受注の減少が続いていることを主要因として、5ヶ月連続で前年同月比で減少となっている。また、派遣社員数は前年同月比で大幅に減少している。
非製造業	卸売業	生鮮魚介 精算所取扱高は前年同月比99.7%。 商品単価の上昇、鮮魚関係の入荷の減少等の影響で4月以降、3ヶ月連続で取扱高は昨年を下回っている。 丑の日前に鰻関係の荷動きは伸びたものの、売上高は全体的には減少している。
		米麦 米の民間在庫が大きく減少し、需給の逼迫感が強くなり、通常取引をしていない農家とのスポットでの売買が増えることが想定される。
		袋セメント 袋セメントの7月出荷量は33千袋、前年同月比97.6%の実績となった。 公共工事が本格稼働となったことで、出荷数量は前年同月比に迫る実績となった。 売上高は袋セメント価格の値上げにより増加した。 量販店ノンブランド品との価格差は依然大きく、価格競争が激化している。
	小売業	県北地区共同店舗 店舗全体の売上高は対前年同月比104.3%、客数は同117.2%、前年同月の売上高を確保できた店舗は66.6%であった。 移転に伴う閉店セールを開催している店舗もあり、客数増加の要因と思われる。
		鹿行地区共同店舗 猛暑の為か、13時から16時頃までの来客数が減少している。
		家電 猛暑によりエアコンの売上は堅調、全体としては夏物が好調のため売上高は前年を上回っている。 エアコンの販売期間は例年、8月中旬までだが今年は納品遅れもあり、8月後半まで延長する。
		燃料 国の燃料油価格激変緩和策によりレギュラーガソリンの平均価格は、前年同月に比べ約0.6円/ℓ安くなっているが、170円を超えている。 人件費確保、物価上昇等に対応するため採算販売の徹底を促しているが、元売販売子会社や県外大手の販売価格に地元事業者もある程度追随する必要があり、経営状況は厳しい状況にある。 人手不足が深刻化している。
		二輪自動車 昨年はコロナ禍の影響で自動二輪車は密を避ける乗り物として重宝されたが、コロナ禍後の今年上半期は、昨年比93%の販売（二輪車普及協会のG防犯登録数）となった。50ccの新車の入荷が少なく、来月5月に50ccのバイクの生産が終了するが、需要に見合った供給がされるか先行きは不透明である。
		スポーツ用品 各メーカーからの値上げ要請により、値上げを行ったことで売上高が上昇した。 特に中学校・高校の体育関係の商品の値上げの影響が大きい。
中古自動車 販売台数は前年同月比5.7%増、販売価格は同8.0%増と前年を上回り、売上高も同114.2%と大きく増加した。ただし、7月の前年超えは、前年同月が低水準だったことによる反動増で、コロナ禍前と比較すると依然として低迷している。 また、流通市場の深刻な中古車不足と輸出の好調が相まって、流通価格の高騰が仕入れにも大きな影響を及ぼしており、販売価格の上昇が収益増につながらない厳しい経営環境が続いている。		
野菜・果実 7月は野菜果物合計で前年対比98.5%の取扱高となった。 空梅雨と7月上旬の猛暑の影響もあり、前進出荷や育成不順も見られたものの全体では6月から引き続きやや単価安で推移した。 メロンを始めとした茨城県産作物の最盛期も過ぎ、6月に買上を伸ばしていた、転送業（県内市場で購入した茨城県産作物を他県市場で販売する）を営む組合員の買上も落ち着きを見始めた。		

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
商店街	ひたちなか	飲食店において19時から20時頃は来客が多いものの、21時以降の遅い時間帯の来客数が減少しており、閉店時間を早める飲食店が見受けられる。
	水戸	人手不足が続いている。また、原材料費の高騰などの影響から業況は悪化している。
	筑西	原材料費の高騰が著しい。
サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数（持込検査）の対前年同月比は、普通車（104.3%）・軽自動車（107.8%）ともに微増となったが、コロナ禍前の状況までは回復していない。エンジンオイル等の油脂類の高騰が、収益面を悪化させている。
	旅館、ホテル	夏休みに入りファミリー層が好む地域及び水泳大会やサッカー大会などの開催地域にあたる場所では予約が堅調であるが、そうでない地域との間に格差が生じている。 集客地域については、県内及び関東の地域が多く、インバウンドについては台湾や東南アジアからが多いものの、なかなか需要が増えない状況である。 また、販売価格の上昇に伴い売上高は増加しているものの、諸物価及び人件費の高騰等の固定費が高み、収益や資金繰りが好転しない状況にある。
建設業	鹿行地区建設	本年4月から時間外労働の上限規制が適用され、時間外労働の削減に取り組む必要があり、週休二日制工事の推進やデジタル化を活用した効率化が求められている。
	県北地区管工事	8月より一部の部材（銅製品）の値上げが予定されている。
運輸業	軽貨物自動車	令和6年度7月度の組合員数は100名、車輛台数は129台である。また、運送売上高については前年同月比95.5%であった。
	一般貨物自動車	主要顧客の発送物量は、製品毎の増減はあるものの全体としては、低調に推移している。運賃は値上げされたが、車両の維持経費は高み、燃料価格も高値で推移しているため、収益は改善していない。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食におけるパン給食の回数増
小売業	燃料	<ul style="list-style-type: none"> <li>揮発油に課税している二重課税の廃止</li> <li>燃料油価格激変緩和策の継続と出口戦略の明確化</li> <li>物価上昇、円高への対策</li> </ul>
商店街	ひたちなか	店舗スペースの貸し出しにあたって、雨漏りが障害となって貸し出せないケースが頻出している。雨漏り対策のための補助金等があれば利用したい。
サービス業	旅館、ホテル	食材や人件費の高騰に対し経営努力で対応してきたが、経営が厳しくなり料金を値上げしたが、値上げできないところもある。現在最低賃金について審議されているとの報道があるが、最低賃金について業種に関係なく決定されるのはいかがなものかと思う。地域でのイベント等を増やし、県外からの宿泊需要を増やしてほしい。
建設業	鹿行地区建設	公共工事の発注件数の増加

月次景況調査 7月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	7月	6月	前月比	7月	6月	前月比	7月	6月	前月比
景 況	▲ 32.0	▲ 38.3	6.3	▲ 36.0	▲ 45.8	9.8	▲ 28.0	▲ 30.4	2.4
売 上 高	▲ 2.0	▲ 21.3	19.3	▲ 24.0	▲ 33.3	9.3	20.0	▲ 8.7	28.7
収 益 状 況	▲ 28.0	▲ 31.9	3.9	▲ 36.0	▲ 37.5	1.5	▲ 20.0	▲ 26.1	6.1
販 売 価 格	34.0	23.4	10.6	16.0	12.5	3.5	52.0	34.8	17.2
取 引 条 件	▲ 14.0	▲ 12.8	▲ 1.2	▲ 16.0	▲ 16.7	0.7	▲ 12.0	▲ 8.7	▲ 3.3

# 中小企業月次景況調査(令和6年7月)DI値(前年同月比)

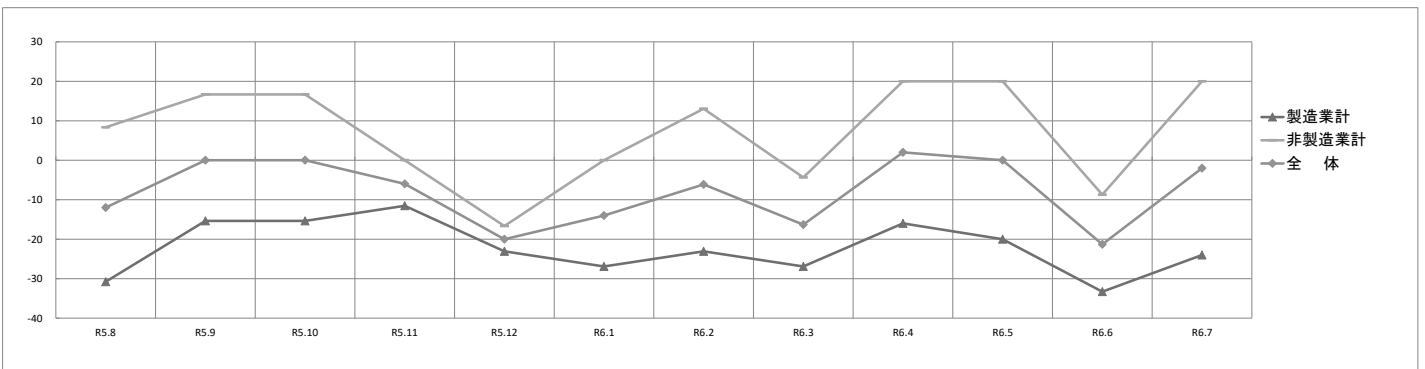
	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況													
	DI	(内訳)			DI	(内訳)			DI	(内訳)			DI	(内訳)			DI	(内訳)			DI	(内訳)			DI	(内訳)			DI	(内訳)			DI	(内訳)												
		増加	不変	減少		業界数	増加	不変		減少	業界数	上昇		不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化		業界数	好転	不変		悪化	業界数	上昇		不変	悪化	業界数		増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数					
製造業	食料品	△ 57.1	0	3	4	7	0.0	0	7	0	7	57.1	4	3	0	7	△ 28.6	0	5	2	7	△ 42.9	0	4	3	7	△ 57.1	0	3	4	7	△ 42.9	0	4	3	7	△ 14.3	0	6	1	7	△ 42.9	0	4	3	7
	繊維工業	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2
	木材・木製品	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3
	紙・紙加工品	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	窯業・土石製品	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5
	鉄鋼・金属	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	一般機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1
	電気機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	輸送機器	66.7	2	1	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	1	1	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
製造業計	△ 24.0	3	13	9	25	△ 16.0	0	21	4	25	16.0	6	17	2	25	△ 16.0	0	21	4	25	△ 36.0	0	16	9	25	△ 28.0	0	18	7	25	△ 20.0	1	18	6	25	△ 20.0	0	20	5	25	△ 36.0	0	16	9	25	
非製造業	卸売業	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	66.7	2	1	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3					
	小売業 (商店街含む)	30.8	5	7	1	13	△ 15.4	1	9	3	13	53.8	8	4	1	13	△ 23.1	1	8	4	13	△ 23.1	1	8	4	13	△ 7.7	2	8	3	13	△ 15.4	1	9	3	13	△ 23.1	1	8	4	13					
	サービス業	50.0	1	1	0	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 100.0	0	0	2	2	
	建設業	0.0	1	3	1	5					40.0	2	3	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	
	運輸業	0.0	0	2	0	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	
	非製造業計	20.0	8	14	3	25	△ 18.8	1	11	4	16	52.0	14	10	1	25	△ 12.0	1	20	4	25	△ 20.0	1	18	6	25	△ 8.0	2	19	4	25	△ 16.0	1	19	5	25	△ 28.0	1	16	8	25					
全体	△ 2.0	11	27	12	50	△ 17.1	1	32	8	41	34.0	20	27	3	50	△ 14.0	1	41	8	50	△ 28.0	1	34	15	50	△ 18.0	2	37	11	50	△ 20.0	1	38	6	50	△ 18.0	1	39	10	50	△ 32.0	1	32	17	50	

## D I 値推移表 (R5. 8月 ~ R6. 7月期)

### 《売上高の推移》

前年同月比	R5. 8	R5. 9	R5. 10	R5. 11	R5. 12	R6. 1	R6. 2	R6. 3	R6. 4	R6. 5	R6. 6	R6. 7
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7	33.3	16.7	▲ 16.7	▲ 33.3	16.7	▲ 42.9	▲ 14.3	▲ 42.9	▲ 57.1
製造業(食料品製造業以外)	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 5.6	▲ 22.2	▲ 71.4	▲ 11.1
製造業計	▲ 30.8	▲ 15.4	▲ 15.4	▲ 11.5	▲ 23.1	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 26.9	▲ 16.0	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 24.0
卸売業	66.7	0.0	33.3	33.3	▲ 66.7	33.3	100.0	66.7	100.0	0.0	▲ 66.7	0.0
小売業(商店街含む)	16.7	33.3	0.0	▲ 8.3	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 18.2	▲ 18.2	15.4	46.2	18.2	30.8
サービス業	50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	50.0
建設業	▲ 40.0	40.0	40.0	▲ 20.0	0.0	40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	100.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0
非製造業計	8.3	16.7	16.7	0.0	▲ 16.7	0.0	13.0	▲ 4.3	20.0	20.0	▲ 8.7	20.0
全体	▲ 12.0	0.0	0.0	▲ 6.0	▲ 20.0	▲ 14.0	▲ 6.1	▲ 16.3	2.0	0.0	▲ 21.3	▲ 2.0

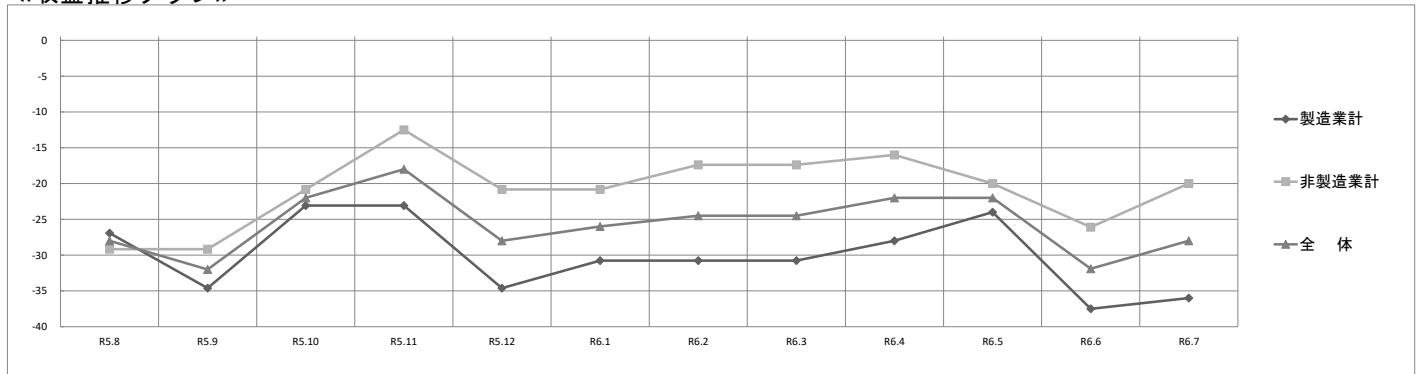
### 《売上高推移グラフ》



### 《収益の推移》

前年同月比	R5. 8	R5. 9	R5. 10	R5. 11	R5. 12	R6. 1	R6. 2	R6. 3	R6. 4	R6. 5	R6. 6	R6. 7
食料品製造業	0.0	▲ 16.7	▲ 16.7	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 42.9	▲ 42.9
製造業(食料品製造業以外)	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 55.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 45.0	▲ 27.8	▲ 22.2	▲ 35.2	▲ 33.3
製造業計	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 23.1	▲ 34.6	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 28.0	▲ 24.0	▲ 37.5	▲ 36.0
卸売業	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	0.0	▲ 66.7	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0
小売業(商店街含む)	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 45.5	▲ 36.4	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 18.2	▲ 23.1
サービス業	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 100.0	0.0	0.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 17.4	▲ 17.4	▲ 16.0	▲ 20.0	▲ 26.1	▲ 20.0
全体	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 22.0	▲ 18.0	▲ 28.0	▲ 26.0	▲ 24.5	▲ 24.5	▲ 22.0	▲ 22.0	▲ 31.9	▲ 28.0

### 《収益推移グラフ》

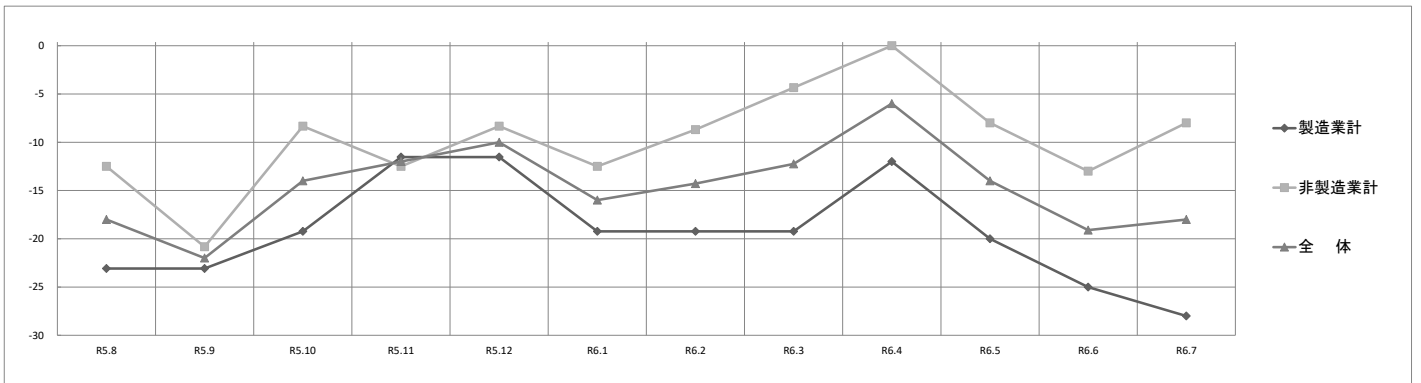


## D I 値推移表 (R5. 8月 ~ R6. 7月期)

### 《資金繰りの推移》

前年同月比	R5. 8	R5. 9	R5. 10	R5. 11	R5. 12	R6. 1	R6. 2	R6. 3	R6. 4	R6. 5	R6. 6	R6. 7
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 50.0	0.0	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 28.6	▲ 42.9	▲ 42.9	▲ 57.1
製造業(食料品製造業以外)	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 5.6	▲ 11.1	▲ 17.6	▲ 16.7
製造業計	▲ 23.1	▲ 23.1	▲ 19.2	▲ 11.5	▲ 11.5	▲ 19.2	▲ 19.2	▲ 19.2	▲ 12.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 28.0
卸売業	0.0	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
小売業(商店街含む)	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 8.3	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 18.2	▲ 18.2	▲ 15.4	▲ 7.7	▲ 9.1	▲ 7.7
サービス業	0.0	0.0	▲ 100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0
建設業	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 12.5	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 12.5	▲ 8.3	▲ 12.5	▲ 8.7	▲ 4.3	0.0	▲ 8.0	▲ 13.0	▲ 8.0
全体	▲ 18.0	▲ 22.0	▲ 14.0	▲ 12.0	▲ 10.0	▲ 16.0	▲ 14.3	▲ 12.2	▲ 6.0	▲ 14.0	▲ 19.1	▲ 18.0

### 《資金繰り推移グラフ》



### 《景況の推移》

前年同月比	R5. 8	R5. 9	R5. 10	R5. 11	R5. 12	R6. 1	R6. 2	R6. 3	R6. 4	R6. 5	R6. 6	R6. 7
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 66.7	0.0	16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	0.0	▲ 14.3	▲ 28.6	▲ 42.9	▲ 42.9
製造業(食料品製造業以外)	▲ 40.0	▲ 35.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 35.0	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 22.2	▲ 27.8	▲ 47.0	▲ 33.3
製造業計	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 15.4	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 20.0	▲ 28.0	▲ 45.8	▲ 36.0
卸売業	▲ 33.3	▲ 66.7	0.0	0.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 27.3	▲ 45.5	▲ 30.8	▲ 23.1	▲ 36.4	▲ 23.1
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	0.0	50.0	▲ 50.0	▲ 100.0
建設業	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 21.7	▲ 34.8	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 30.4	▲ 28.0
全体	▲ 30.0	▲ 22.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 22.0	▲ 12.0	▲ 26.5	▲ 32.7	▲ 20.0	▲ 24.0	▲ 38.3	▲ 32.0

### 《景況推移グラフ》

